

256 列 MDCT により肥大型閉塞性心筋症 (HOCM) の詳細診断を行った 1 例

福田 康了¹¹澄心会 岐阜ハートセンター

本症例は 60 歳代女性で、無症候性ながら肥大型心筋症 (HCM) として他院で加療中であった。2023 年心エコーにて左室流出路圧較差 39mmHg と報告されていたが、種々の薬物治療にもかかわらず、2025 年には 67mmHg に増加。経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA) の適応評価のため当院を紹介された。当院施行の心エコーでは IVSTd 17.8mm、PWThd 10.9mm、SAM 陽性、圧較差は 89mmHg と著増。256 列 MDCT (SnapShot Freeze 2) による精査により、心筋肥厚 (IVSTd 21.6mm)、冠動脈 LAD #6 の中等度狭窄、SAM の形態的起因 (弛緩腱索と僧帽弁前尖の複合体) が明確に描出された。本症例では、全心周期にわたる volume data の取得により、任意断面のシネ表示や 4D 再構成が可能であることが確認され、PTSMA 施行時の CT 所見の重要性を示唆する症例である。

